

今昔館の近代展示室を愉しむ(1)

「大阪くらしの今昔館」(大阪市立住まいのミュージアム)は、「住まいの歴史と文化」をテーマにした、日本で初めての専門ミュージアムです。9階「なにわ町家の歳時記」は江戸時代のフロアで、天保初年(1830年代前半)の大坂の街並みを実物大で再現しています。8階「モダン大阪パノラマ遊覧」は明治・大正・昭和のフロアで、近代大阪の代表的な住まいと暮らしに関する実物資料や模型を展示しています。

今回から、8階「モダン大阪パノラマ遊覧」の見どころを、連載で紹介します。第1回目では、近代のフロアの全体構成をご紹介します。



フロア中央の床面は、4.8m×6.6mの大きな地図になっています。大正13年(1924)に発行された「大阪市パノラマ地図」を縦横約6倍に拡大し、光床にして展示したものです。



地図の周りには、6つの精巧な模型「住まいの大阪六景」があります。左手前から時計回りに、①川口居留地、②北船場、③大大阪新開地、④空堀通、⑤城北バス住宅、⑥古市中団地です。建物はもちろんのこと、暮らしぶりや風俗まで細かく再現されています。



④⑤⑥の3つの模型は、1時間に2回場面転換し、住まい劇場「ある家族の住み替え物語」が上演されます。空堀商店街で生まれ育ち、戦後バス住宅で仮住まいし、高度成長期には古市中団地に引っ越した、悦子さんの住み替え物語です。八千草薫さんによる語りと映像、模型でお楽しみいただけます。

フロアの外周部は、左手前から時計回りに、からくり錦絵(造幣寮、心齋橋、梅田ステーション)、天神祭、心齋橋筋商店街、通天閣とルナパーク、近代都市住宅年表、暮らしの道具が展示されていて、暮らしの変遷をたどることができます。



見学方法は自由自在。外周の暮らしの変遷から始めて一回りし、それから内側へと入って行ってもいいし、逆に、真ん中のパノラマ地図からスタートして、住まいの大阪六景へと進んでも構いません。

但し、ご注意いただきたいのは、隠された展示の「住まい劇場」。1時間に2回(毎時0分、30分開始)しかありませんから、お見逃しのないように。